

令和3年度学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	地域の信頼に応え、節度を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育てる学校
--------	---

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域への情報発信を通じ、本校への理解を高める 3 基本的生活習慣の確立を目指し、規律ある学校生活を送る 4 生徒の自主的活動を通じ、社会に貢献する心豊かな人間形成を図る
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	学習機会を保障するため、リモート授業等の実施などを想定した学習環境を整える必要がある。 生徒は授業に集中するようになっていくが、より一層授業に集中できる環境とする必要がある。進路意識の高い生徒もいるので、1年生から進路希望を踏まえたクラス編成を考える必要がある。 昨年度より本校独自に開始したインターンシップを継続して実施していく。コロナ禍で進路未内定者が増加している中、進路決定者数を増加させる必要がある。	(1) 学習環境を整備・充実させ、学習に集中できる環境を整える。学び直しを活用し、生徒の基礎基本の定着を徹底させ、「わかる」授業を実現する。	① コロナ禍でも学習が保障されるように、オンライン授業等が行える体制を作る。 ② チャイム to チャイムを徹底し学習に取り組む環境を整える。 ③ 「学び直し」に関する学校独自教材を改良する。 ④ 放課後勉強会・考査前勉強会を実施する。	① オンライン授業ができるなどの学習環境の整備状況。 ② 生徒アンケート「チャイム着席」の状況。(昨年度92.9%) ③ 「学び直し」のための教材の工夫・改善状況。 ④ 各種勉強会への生徒の参加状況。			
		(2) 生徒の進路意識を段階的に向上させ、生徒一人ひとりの望ましい進路を実現させる。	① 進路に対応したクラス編成について具体化する。 ② 昨年度より開始したインターンシップを2年生で実施する。 ③ 分野別ガイダンスの実施やClassroomで進路情報を発信する。 ④ スタディサプリ・到達度テストを活用する。	① クラス編成の編成方針が確定したか。 ② インターンシップの実施状況。 ③ ガイダンスの実施状況。Classroomでの情報提供数。進路未内定者の減少。 ④ スタディサプリの活用回数。到達度テストの実施回数。			
2	コロナ禍により、広報する機会が減っている。本校の取り組みを、地域、近隣中学校、外部機関にアピールする必要がある。生徒の活躍の様子を伝えることは重要である。生徒の活躍の場を設け、様子を伝えていきたい。	(1) HPの更新、学校便り等の発行による情報発信と共に地域との交流を深める。	① HP更新、通知文等を一斉メール配信し学校の取組を外部に発信する。 ② 地域行事に積極的に参加する。	① HPの更新状況。学年・分掌での更新回数。 ① 学校便り発行状況。 ② 地域行事の参加回数。			
		(2) 生徒等の参加による生徒募集の方法を工夫する。	① 学校説明会で生徒が進行・発表する場を増やすなど説明会の内容を改善する。 ② 1年生による中学校訪問を実施する。	① 学校説明会の本校生徒の取組状況。 ① 学校説明会への中学生の参加者数。 ② 生徒訪問への学校数。			
3	基本的生活習慣が身につけている生徒は増加している。遅刻の延べ回数は昨年度大きく減少した。遅刻・欠席者減少に向けた取り組み、身だしなみ指導の継続した取り組みを行う。 交通マナーについて苦情をいただくことがある。交通マナーの改善を行う必要がある。	教職員間で生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的かつ一貫した指導を推進する。自主自立の精神の育成のため、マナー・時間管理の意識を向上させる。	① 下校巡回指導、昇降口での立哨指導を実施し、基本的生活習慣を確立させる。 ② 授業担当者による身だしなみ指導を実施する。 ③ 自転車マナーアップを推進する。	① 遅刻者・欠席者数の減少の割合。(遅刻指導対象者数前年比15%減) ② 身だしなみ指導該当者数の減少の割合。 ③ 近隣からの苦情・交通トラブル、事故件数の減少。			
4	昨年度はコロナ禍により活発な活動ができなかったが、今年度は内容を検討しながら行事を実施したい。様々な場面で生徒が自ら考え、主体的に活動し、活躍できる場を設定する必要がある。 特別な支援が必要な生徒が増加傾向であり、各種の支援を実施する。	(1) 生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を促す。団活動やその他の行事を通して、生徒の自己管理能力を高める。	① 各行事において生徒に主体的に運営させる。 ② 団活動や委員会活動を活性化させる。	① 行事における生徒の運営状況。 ① 文化祭等学校行事に対する生徒の満足度。 ② 団活動及び委員会の活動状況。			
		(2) 教育相談については、外部との連携を強化するとともに、特別支援教育、多文化共生等の充実を図る。	③ 教育相談・特別支援教育委員会を定期的に開催し、課題のある生徒への対応を適切に行う。 ④ 多文化共生推進員を有効活用する。	③ 課題のある生徒への対応状況。 ③ 外部機関との連携状況。 ④ 日本語指導の実施状況。			

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	